

第16回中野総合学科新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和7年4月21日（月）

17時30分～19時

会場：中野立志館高校 大講義室

<次第>

1 開 会

2 挨拶

3 新構成員・事務局員自己紹介

4 会議事項

(1) 新校開校までのロードマップについて

- ・これまでの懇話会の実施状況
- ・ワーキンググループ

(2) 第15回中野総合学科新校再編実施計画懇話会まとめについて

(3) 統合方法について

(4) 中野総合学科新校施設整備について

- ・施設整備基本計画
- ・ワークショップ報告
- ・現時点の検討状況について

(5) その他

5 その他

<次回の予定>

- ・期日：調整中
- ・内容：施設整備事業基本計画策定の進捗状況 他

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

令和7年度 中野総合学科新校 再編実施計画懇話会 構成員名簿 (敬称略)

区分	氏名 (○: 座長)	所属等	新構成員
1	竹内 敏昭	中野市 副市長	
2	久保田 敦	山ノ内町 副町長	
3	○柴本 豊	中野市教育委員会 教育長	
4	竹内 延彦	山ノ内町教育委員会 教育長	
5	藏谷 伸太郎	信州中野商工会議所 議員	
6	中島 弘子	山ノ内町商工会 女性部部长	
7	斉藤 武美	中野立志館高等学校同窓会 副会長	
8	綱嶋 健二	中野西高等学校同窓会 会長	○
9	関 健	中野立志館高等学校PTA 会長	
10	芋川 利幸	中野西高等学校PTA 会長	○
11	荒井 健悟	中高PTA連合会 (中学校代表)	
12	外山 平	中高PTA連合会 (小学校代表)	○
13	岡田 美穂	小布施中学校PTA 副会長	○
14	山崎 巖	中野立志館高等学校 校長	○
15	阿部 佳代子	中野立志館高等学校 教諭	○
16	堀内 和徳	中野西高等学校 校長	
17	荒川 英子	中野西高等学校 教諭	
18	小山 正博	中高飯水校長会 会長 (中野平中学校)	○
19	市村 一彦	中高飯水校長会 副会長 (日野小学校)	○
20	嶋田 和美	上高井郡校長会 (小布施中学校)	
21	学識経験者 大日方 悦夫	元県立高等学校長	
22	地域 三森 和子	北信地域振興局 局長	○
23	佐藤 素子	山ノ内中学校保護者	○
25	生徒 黒岩 佳佑	中野立志館高等学校生徒会 会長	
26	川邊 暖太	中野立志館高等学校生徒会 副会長	
27	宮入 彩愛	中野立志館高等学校生徒会 副会長	
28	宮川 響	中野西高等学校生徒会 会長	
29	渡辺 琉之介	中野西高等学校生徒会 副会長	
30	阿藤 綾	中野西高等学校生徒会 副会長	

事務局

網掛け = 新構成員

中野立志館高等学校		中野西高等学校		高校再編推進室	
生田 憲克	全日制教頭	小野 陽子	教頭	原 多恵子	主幹指導主事
椋村 将生	定時制教頭	宮尾 久枝		荻原 洋平	主任指導主事
阿部 佳代子		佐々木 優也		細萱 裕樹	主任指導主事
小林 ちひろ		佐藤 拓哉		貝野 宗司	主事
清水 潔		荒川 英子		学びの改革支援課	
滝澤 真一				佐久 浩信	主任指導主事

中野総合学科新校（仮称）再編実施基本計画

1 再編統合対象校

中野立志館高等学校、中野西高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 12 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であることと、施設の整備期間等を考慮し、令和 12 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

中野立志館高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、学びを支える施設・設備等の学習環境、隣接施設の有用性の観点から中野立志館高等学校の校地・校舎を活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 総合学科 7～8 学級程度

定時制課程 普通科 1 学級

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

総合学科のシステムを使いながら、持続可能な社会づくりの担い手を育てていくための多彩な教科・科目を開設する。

募集学級数は、旧第 2 通学区の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 7～8 学級程度が想定される。

現在の中野立志館高等学校定時制は、中野総合学科新校に移管する。

5 学びのイメージ

別紙のとおり

中野立志館高等学校の総合学科、中野西高等学校のユネスコスクール^{注1}の学びを継承し、ユネスコスクールの中心的な学びである ESD（持続可能な開発のための教育）^{注2}をベースにグローバルな人材育成を目指す、地域全体を学びのフィールドとした地域の学びの拠点となる総合学科高校を構想する。

注1)ユネスコスクール：ASPnet(UNESCO Associated Schools Project Network)

・ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校

注2)ESD(Education for Sustainable Development)：持続可能な開発のための教育

・人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できる社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動

6 施設整備

新校の学びに必要な施設設備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

未来に挑戦するための総合学科高校

目指す学校	○挑戦	様々なことに挑戦し、失敗しても粘り強く取り組む力を育む
	○創造	自己と他者を見つめ、社会と積極的に関わりを持ち、変化に柔軟に対応できる創造力を育む
	○協働	地域から世界まで、幅広い視野を持ち、他者と協働し未来社会に貢献できる人を育てる

総合学科×ESD(持続可能な開発のための教育)

キャリアデザイン

多彩な科目

探究学習・ESD

○多様な進路希望に対応できる教育課程

- 自分だけの時間割を作成
 - ・キャリアデザイン・ライフデザインに繋がる多彩な系列(科目群)から自由を選択
 - ・大学進学に特化した科目選択も可能
- バラエティーに富んだ学び(系列=科目群)
 - ・普通科目(国語、数学、外国語、芸術等)と専門科目(工業、商業、農業、家庭等)に加え、デジタル(AI、ロボット)、福祉、観光等の現代的な課題にアプローチする学び

○自分の「好き」や「強み」を究める学びを卒業単位として認定

- 単位制の自由度を活かした学校外の様々な取組などを単位認定
 - ・ボランティア活動や長期インターンシップ等の体験的な学び
 - ・英検・漢検などの各種資格取得
 - ・長期・短期の海外留学
 - ・大学生や地域の方とともに取り組む自主的な探究活動
- オンラインの活用等による学び
 - ・大学の講義の受講(先取り履修)、専門学校での体験的な授業や他の高校の授業の履修

○環境、地域の課題や国際理解について地域と協働して取り組むESD

- 地域全体を学びのフィールドとした学習活動
 - ・多様性受容力を高め、学びを深めるための地域共学共創コンソーシアムとの連携(地域の人などを外部講師として活用した授業、地域と協働したフィールドワーク等)
- 異文化理解を深めるための海外との交流や海外留学への支援
 - ・国内外のユネスコスクールとの交流やESD協働学習
 - ・国内外の姉妹校との交流
 - ・地域の教育資源(観光等)を活用した国際交流
 - ・地球規模の課題(平和、貧困・格差等)に取り組むための学校が独自に設定する科目
 - ・信州つばさプロジェクトの積極活用

地域共学共創コンソーシアム



大学・専門学校
幼保小中高



研究・医療
福祉機関



地域産業



自治体

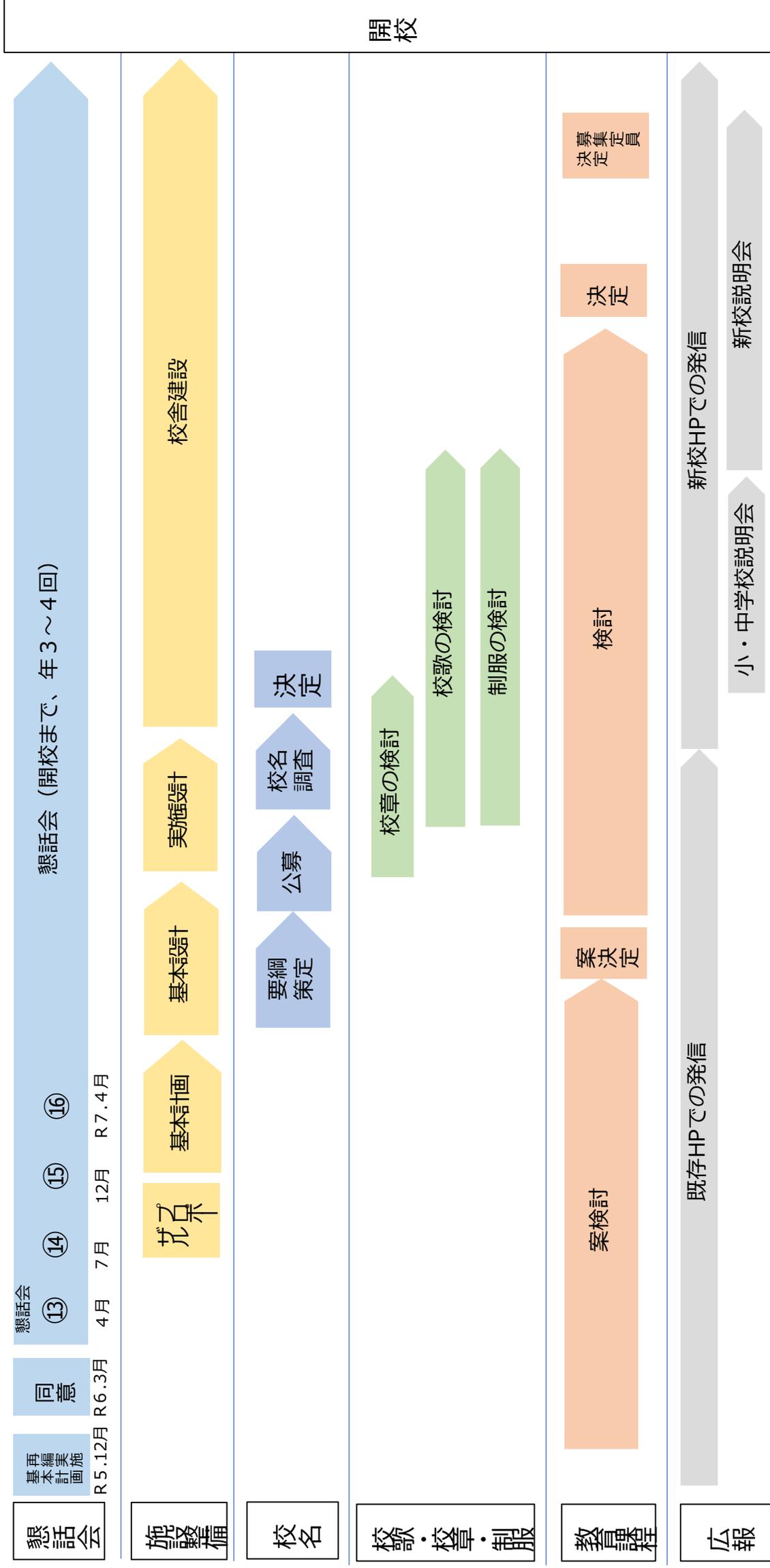
ユネスコスクール



【中野立志館高校の定時制課程は中野総合学科新校に移管】

中野総合学科新校の開校までのロードマップ（イメージ図）

(年度) R5 R6 R7 R8 R9 R10 R11 R12



新校検討ワーキンググループ

中野立志館高校

中野西高校

【懇話会事務局】

○総務

校名、学校目標・教育方針、校歌、校旗・校章、服装（制服）検討、新校舎建設、入学者選抜、校務分掌、学校評価、学校評議員、閉校・閉科の準備、合同職員会、懇話会運営 など



【部会】

○教務

履修・修得・卒業認定、年間行事検討、修学旅行、日課時限、内規、クラス編成等、学校説明会、体験入学、パンフ作成、使用教科書、成績処理・学籍管理、入学式・卒業式 など

○広報

広報計画、ホームページ作成、ホームページ開設・更新、小中学校向け広報、地域向け広報、在校生向け広報 など

○学習指導

産業社会と人間、総合的な探究の時間、課題研究、地域連携、大学・企業連携、基礎学力定着、教科・学科横断型の学び、習熟度授業、シラバス、学力・学習実態調査、授業評価 など

○教育課程

教育課程、資格単位 など

○図書(メディアセンター)

メディアセンター構想、蔵書確認・廃棄 など

○進路

進路指導方針、進路講和・進路ガイダンス、外部テスト、補習体制、進路相談体制 など

○生徒指導

生徒指導方針、指導内規、免許取得・アルバイト、学校の決まり（生徒会）、ハラスメント防止ガイドライン など

○渉外

P T A組織の検討、同窓会組織の検討 など

○生徒会

生徒会活動方針、生徒会行事・委員会、文化祭、生徒会・部活動の組織、部活動方針、生徒会規則・会計、学校のきまり(生指)、生徒手帳作成 など

○特別支援

特別支援方針、ユニバーサルデザイン、特別支援体制 など

○定時制

全般

○保健

生徒保健情報管理、職員保健情報管理、学校医・薬剤師 など

○施設

校地の整備、備品の整備、既存校舎からの引越 など



○高校教育課（高校再編推進室 ・ 管理係 ・ 施設係）

○学びの改革支援課

県教育委員会

第 15 回 中野総合学科新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ(案)

日 時	令和 6 年(2024 年)12 月 23 日(月曜日)17 時 30 分～19 時 00 分		
場 所	中野市中央公民館 301 講堂		
出 席 (敬称略)	竹内敏昭、柴本豊、芦澤孝幸、木正実、荒井健吾、宮澤昭雄、滝澤崇、森角太一、堀内和徳、荒川英子、大塚秀樹、渡邊浩司、小池広益、小林妙子、黒岩佳佑、川邊暖太、渡辺琉之介、阿藤綾(以上 18 名)		
欠 席 (敬称略)	久保田敦、竹内延彦、藏谷伸太郎、中島弘子、斉藤武美、関健、寺島重則、嶋田和美、大日方悦夫、宮入彩愛、宮川響(以上 11 名)	傍聴者	6 名(内オンライン 3 名)、マスコミ 1 社
事務局	中野立志館高校	生田教頭(事務局長)、森角教諭、小林教諭、清水教諭、阿部教諭	
	中野西高校	小林教頭(副事務局長)、宮尾教諭、島田教諭、荒川教諭	
	県教育委員会	武田企画幹、熊谷担当係長、塚田主任指導主事、宮嶋主任指導主事、山崎主任指導主事	
当日資料	第 15 回懇話会資料、中野総合学科新校 NSD プロポーザル提案書、プロポーザルプレゼンテーション資料		

会議事項

- (1) 第 14 回懇話会まとめ
- (2) 統合方法について
- (3) 中野総合学科新校施設整備について
- (4) 新校でのカリキュラム等の構築に向けた検討内容(報告)

主な内容(要旨)(・質問 → 事務局回答)

- (1) 「第 14 回中野総合学科新校再編実施計画懇話会」まとめ(承認)
- (2) 統合方法について
 - ア 中野立志館高校開校の際の職員配置について(概要説明)
 - 平成 19 年度開校時は全日制が中野高校、定時制が中野実業高校の校地、平成 20 年度は全日制、定時制ともに中野実業高校の校地にあったことから、中野立志館高校が置かれている校地の校長は兼務をしていた。(平成 19 年度は中野実業高校校長が副校長を兼務)
 - 全日制教頭は兼務がなかったが、定時制教頭は中野実業高校と兼務していた。
 - イ 検討の進め方
 - 統合方法に対する意見(第 13 回・第 14 回懇話会、第 13 回懇話会でのアンケート)まとめ(懇話会資料 P4～5)のとおり、一斉統合、年次統合、それぞれの意見をいただいているため、これまでいただいた意見をもとに事務局で検討し、その結果をもとに懇話会としてまとめていただきたい。(承認)
- (3) 中野総合学科新校施設整備について
 - 新校施設整備のパートナーである「ラーバンデザインオフィス・小林・細谷設計共同企業体」からプロポーザル提案書と施設整備基本計画の策定に向けたスケジュールの説明
 - ①敷地条件等への建築的アプローチ
 - ②NSD にふさわしい学習空間に対する理解及び検討
 - ③構造・設備と事業全体のコストコントロール
 - ④事業実施に係るプロセスマネジメント
 - <質疑・ご意見等>
 - ・ワークショップ等で意見をもらうということであったが、FLA 等の専門用語が使われていて分かりにくい部分もある。是非、ワークショップ等では分かりやすく説明してもらえるとありがたい。
 - ⇒分かりにくい言葉というのは、いつも問題になる。FLA やラーニングパサージュ等、分かりにくい言葉を出すことで、そこに対してどのようなイメージを持たれるかなど、その可能性を皆で育てたいという思いもある。それが何だ

ということを考えていただきたい。

- ・アンケートやワークショップでの意見を聞き、設計チームが「施設整備事業基本計画」を策定するということであるが、それを懇話会が承認するということがよいのか。懇話会で意見が出れば変更もあるのか。

⇒今回のプロポーザルでの提案をもとに、ワークショップや懇話会でご意見いただきながら進めていく。

- ・「施設整備事業基本計画」を提出する前に中間報告等の資料提供をしてもらおうと懇話会で意見が出しやすくなる。

⇒予定している地域・高校生ワークショップでは、進捗状況を資料として共有していく。また、次回の懇話会では、「施設整備事業基本計画」案をもとに意見交換していただく予定である。

- ・想像すると夢があって、こういった校舎で学び直したいと思える素敵なお話だった。

- ・オープンスペースや吹き抜け等の広い空間が計画されているが、暑さや寒さに対して快適な空間をつくれるのか心配である。

⇒空調環境についてはプロポーザル段階での提案である。現段階では輻射冷暖房パネルを壁に並べて温めるという提案をしているが、コスト面を含め、この空間に適したことを考えていきたい。温かくて、皆が来たくくなるような快適な場所にするということが重要であり設備設計の方と考えていく。

- ・「ソソラひろば」に面して地域の方と融合できる「中野カフェ」や「ファブラボ」があり、非常に夢があつていいなと思う。土木実習棟があることから、土木・建築関係の話があつたと思うが、地域との連携という観点でも親しみやすさということも大事である。

⇒今回のプランニング上、土木実習棟が前面に出てくるということから、逆にそこに何か光を当てるようなことを考えた。建築・土木系のものだけを使うというイメージというよりは、「中野カフェ」も同様であるが各系列に関したものが乗り入れ、学びを交差させる場所として使うようなことを考えている。

- ・中学校、小学校では教室に入れない生徒が学習する部屋や居場所を確保している。高校では難しいと思うが、これからはそういったものも求められるのではないかな。

⇒「NSD プロジェクト」では、先生の研究室を一つにした「大職員室」を置くことで、先生方の交流が活発化するということが目標に掲げられており、学校見学をして研究室の状況や、教室に入りづらい生徒の居場所というものも見てきた。

- ・今回の提案ではそういった場所が足りないと考えており、今後の計画の中でそういった居場所を入れ込んでいきたい。
- ・再編統合と聞いて漠然としていたものが、今回の説明でイメージすることができた。また、地域との連携について考えられていて視野が広がった。生徒代表として参加しているので、全校生徒の要望や意見を伝えていきたい。

⇒要望や意見については、生徒、教職員にアンケートをお願いしている。そのアンケートにも回答いただきたい。

(4) 新校でのカリキュラム等の構築に向けた検討内容（報告）

○中野立志館高校、中野西高校で実施した、新校でのカリキュラム等の内容についての職員アンケートや研修会、職員グループディスカッションで出された意見についての報告

- ①幅広い生徒の進路保障 ②新校での学び（農業の学び、地域産業と連動する学び等）

その他

【次回懇話会】

- ・期日：4月（予定）
- ・日時、内容等の調整が済み次第、開催通知にてお知らせする

中野総合学科新校の統合方法について

1 統合方法について

○統合方法⇒年次統合（全日制、定時制）

・全日制については、一斉統合に伴う転校での環境の変化も生徒にとって大きな負担であること、一斉統合では令和 10 年度に学級数を減じる必要がない場合でも現在の学級数を 1～2 学級減じなければならないことから年次統合とする。

※定時制については、「新校に移管する（再編実施基本計画）」としているが、在校生が転校に伴う名称変更等の影響があることから年次統合とする。（移管：一斉統合）

2 第 13 回・第 14 回懇話会まとめ

<p>○学校生活</p> <p>【年次統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中野西高校の最後の 2 年生、3 年生は後輩がいない学生生活になり、可哀そう。 ・中野西高校の広い校舎に 3 年生だけが取り残されるのは苦しいものがある。学校が寂しいものになる。 <p>【一斉統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が増え文化祭など楽しい。 ・クラス数が増えることで、交流が増え、学校行事等も充実した生活を送ることができる。 ・文化祭等も大勢でやった方が楽しい。 ・新校ではクラス数が増え、交流の機会も増えるので、学校生活を楽しめる。 ・現実的に教室のキャパなどの施設面も考慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合方法に係わらず、統合前から両校での交流や合同での活動を行っていく必要がある。 ※生徒の活動や気持的な部分をフォローしていくことが必要である。 ・<u>一斉統合とした場合には、令和 10 年度入学生からの学級数を減じる必要がない場合でも、両校合わせて開校時の 7～8 学級としなければいけない。</u> <p>令和 7 年度入学者募集学級数 中野立志館高校 5 学級、中野西高校 4 学級 ⇒新校 7～8 学級（1～2 学級減）</p>
<p>○学び</p> <p>【一斉統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校の 2 年前からカリキュラムをあわせなければいけない。 ・入学する時の目的や意志があって、その高校に入学しているので、最後はその学校で卒業を迎えたい。 ・自分の次のステージを見越して高校へ進学するが、転校でカリキュラムが変われば本当の意味でキャリア教育の目指している部分から外れてしまうことが心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉統合で転校することについて、令和 10 年度入学生が入学する前から周知していく必要がある。 ・<u>開校年度の中野西高校生徒の転校では、新校校地に通学することになり、環境が変化し負担が大きい。</u>
<p>○部活動</p> <p>【年次統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高体連の大会への参加で、合同チームを嫌がる生徒もいる。 ・部活でも大会に出場ができないようなことであれば可哀そうである。 ・部活動が縮小される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合完了前の 2 年間は合同チームでの大会参加が可能である。また、単独での大会出場も可能である。
<p>○教員</p> <p>【年次統合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が兼務するとしても授業科目には専門的なところがあるので、それを受け持つ先生がいるのか不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合前の学級減においても教員定数も減となることが予想されることから、現状と変わらないと考えるが、兼務教員の不在時の対応として ICT 活用を更に行っていく必要がある。

3 今後の検討課題（懇話会での意見より）

○学校生活
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなイベント、文化祭や卒業式などは子ども中心に考え、コミュニケーションの場、交流の場を設け、子どもたち自身がそういう場について検討が必要である。 ・新校が開校する前から交流を深めていくことが大切であり、どちらの学校の生徒にとっても自分たちの後輩だという気持ちを持ち続けられるような活動が求められる。
○学び
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の卒業後の次のステップに向けた学びを保障するような状況を作っていなければならない。 ・それぞれの学校の良さを活かしているような状況を作り出していくことが必要と考える。 ・生徒は理念や目標をもってそれぞれの高校へ入学してきており、次のステップへ向かいたいという気持ちに応えられるような教育活動を行っていく必要がある。
○広報・周知
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生とその保護者の方が一緒に進路をきめるプロセスをしっかりとっていただくため、新校開校に向けた広報を早期に進める必要がある。
※総合学科について
<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科になって普通科の学びができなければ、4年制大学へ行きたい地元の子どもたちが他地区の高校に行ってしまう心配である。（懇話会での意見） <p>⇒学びのイメージ：総合学科での多様な学びの中で、中野西高校での大学進学への進路指導を行う</p>

中野総合学科新校統合方法について

○年次統合

全日制		R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
中野西	R7入学	3年						
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年	3年			
	R11入学			1年	2年	3年		
立志館	R7入学	3年						
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年	3年			
	R11入学			1年	2年	3年		
新校	R12入学			令和12年4月開校	1年	2年	3年	
	R13入学					1年	2年	3年
	R14入学						1年	2年
	R15入学							1年

○一斉統合

全日制		R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
中野西	R7入学	3年			統合完了			
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年	転校			
	R11入学			1年				
立志館	R7入学	3年						
	R8入学	2年	3年					
	R9入学	1年	2年	3年	令和12年4月募集停止			
	R10入学		1年	2年				
	R11入学			1年				
新校	R10入学				3年			
					3年			
	R11入学				2年	3年		
					2年	3年		
	R12入学			令和12年4月開校	1年	2年	3年	
	R13入学					1年	2年	3年
	R14入学						1年	2年
R15入学							1年	

施設整備基本計画について

(1) 基本計画の目的

設計の基本方針、施設性能、施設規模を確定させる

(2) 基本計画書に記載する内容：

- ①事業の目的、②教育研究の効果（学びのイメージ）、
- ③敷地条件、④施設規模・位置、⑤必要諸室、⑥機能関連図、
- ⑦事業スケジュール、⑧概略の必要経費 等

引用・参考：文部科学省「国立大学等施設の設計に関する検討会報告書」

平成26年3月

イメージ

家を建てる場合を考えると…

- ①大人2人、子ども2人で静かに住む。
- ②家族が毎日顔を合わせて生活できる。
- ③●●市▲▲町◆番地の自身の所有地。角地。
- ④木造2階建て。敷地北側に建てて南側を駐車場にする。
- ⑤3LDK。1階はLDK、風呂。2階に寝室と子ども部屋。それぞれにトイレ。
- ⑥ZEH。オール電化。太陽光パネル必須。
- ⑦長女の小学校入学前に引っ越したいので、1年6か月以内。
- ⑧3千万円

施設整備基本計画決定後

○基本計画終了後 → 基本設計 → 実施設計 → 工事

○基本設計の目的

基本計画の内容を踏まえ、空間を具体化しながら法令上、意匠上、

技術上の課題を検討し**設計内容を確定させる**

○基本設計図書に記載する内容：

- ・ 設計図（配置図、平面図、立面図、断面図 等）
- ・ 各種計画（外観デザイン、動線、構造、防災、電気設備、機械設備）

○実施設計の目的

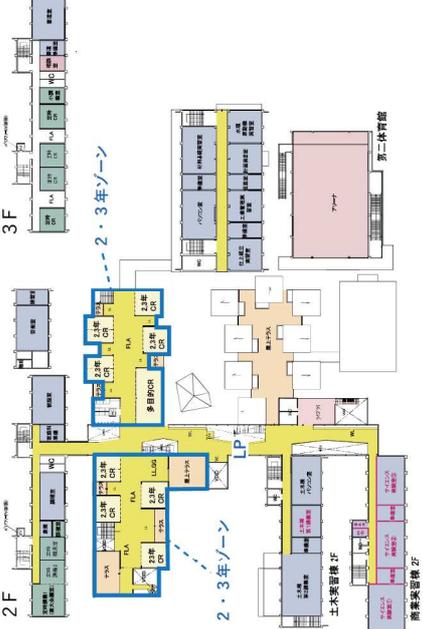
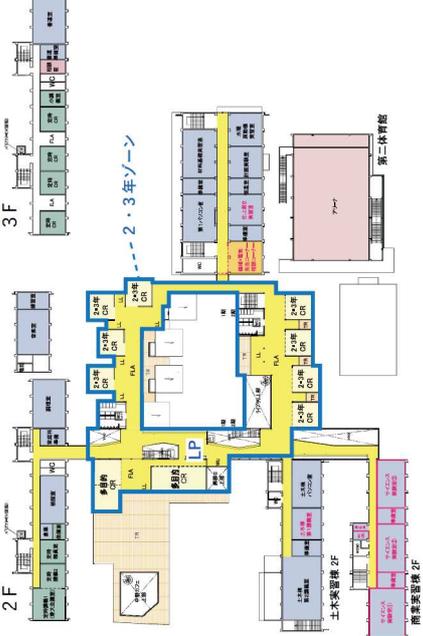
基本設計に基づき、建物の施工に必要な**設計図書や各種計算書等を**

作成する

3. 配置計画、施設の規模

令和7年4月21日時点 第16回中野総合学科新校（仮称）再編実施計画懇話会資料

3-5. 配置比較検討（緑字：メリット、赤字：デメリット）

配置図 1F 平面図	配置案①（プロポザル案修正）	配置案②（南東平屋案）	配置案③（西側管理平屋＋東側教室2階）
2・3F 平面図			
概要	<ul style="list-style-type: none"> LP（ラーニングパサージュ）の北東に平屋の1年生ゾーンを配置 LPの北西2階、南東の1・2階に2・3年生ゾーンを配置（一部多目的CR） 	<ul style="list-style-type: none"> LP（ラーニングパサージュ）の南東に平屋の1年生ゾーンを配置 LPの北西2階、北東の1・2階に2・3年生ゾーンを配置（一部多目的CR） 	<ul style="list-style-type: none"> LP（ラーニングパサージュ）の北東1階に1年生ゾーンを配置 LPの北西・北東の2階、南東の1・2階に2・3年生ゾーンを配置し、ループ状の動線で接続（南東1階は一部多目的CR）
メリット デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 2階の2・3年生ゾーンを対角に配置することで、ライブラリを中心に LP内の活発な活動や交流を促す構成 既存の機械電気実習棟が新棟からやや孤立した印象（屋内廊下で接続も可） HRの授業が多い1年生ゾーンはLP北東で落ち着いた学習環境を確保 ソナラホール、市役所側に多目的外部空間としてソナラ広場を確保、既存水庭の位置に校舎が掛かるため移設先の検討が必要 南側が2階建てとなるため「こもれびのむ」日照条件にやや難あり 管理特別教室棟と1年生ゾーンの間「創作テラス」まわりは日照が良い 地域連携協働室（ギャラリー、中野カフェ）が校舎と一体のため管理区分やセキュリティ確保のために運用上の配慮が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 2階の2・3年生ゾーンが直線的に近接するため教室間移動の負担が少ない一方、CRが全て北側のためLP南側の利用が減るおそれあり 既存の機械電気実習棟が新棟からやや孤立した印象（屋内廊下で接続も可） HRの授業が多い1年生ゾーンはLP南東で落ち着いた学習環境を確保 実習系の棟の中心に1年生ゾーンがあるため2・3年生の移動に支障 ソナラホール、市役所側に多目的外部空間としてソナラ広場を確保、既存水庭の位置に校舎が掛かるため、移設先の検討が必要 南側が平屋の校舎となるため「こもれびのむ」日照条件が良い 地域連携協働室（ギャラリー、中野カフェ）が校舎と一体のため管理区分やセキュリティ確保のために運用上の配慮が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 2階の2・3年生ゾーンをループ状動線で接続して教室間移動の負担を軽減 新棟と2階で接続するため既存の機械電気実習棟へのアクセスが容易に HRでの授業が多い1年生ゾーンは、他学年の通り抜けや干渉を受けにくい LP北東の配置として落ち着いた学習環境を確保 ソナラホール、市役所側に多目的外部空間としてソナラ広場を確保、既存水庭を現在の位置で継続利用できる（一部範囲縮小） やや不利（南側校舎で「こもれびのむ」が阻まれるため、にわりの日照条件が） 2階のループ状動線は、地域連携協働室（ギャラリー、中野カフェ）を校舎から独立した配置とすることで管理区分やセキュリティ確保が容易に